

第4学年 音楽科学習指導案

日 時 平成29年1月18日（水）第5校時
場 所 第2音楽室

1 題材名 せんりつの重なりを感じ取ろう

2 題材について

(1) 学習指導要領との関係

本題材は、主に学習指導要領の「A 表現」（1）歌唱 イ「歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと」ウ「呼吸及び発声の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌うこと」エ「互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと」及び「B 鑑賞」（1）ア「曲想とその変化を感じ取って聴くこと」イ「音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くこと」ウ「楽曲の特徴や演奏のよさに気付くこと」をねらいとしている。

(2) 題材にかかわる児童の実態

本学級の児童は、音楽室に笑顔で訪れ、歌うことや楽器を演奏することを好む児童が多い。担任外による音楽の授業は3年生から行っており、これまでの学習で、「柔らかい声で歌おう」、「リコーダーをきれいな音で吹こう」という意欲的な児童が増えてきた。友達と一緒に声を合わせたり、音楽の流れを感じ取って自然と体を動かしながら鑑賞したりして音楽に進んでかかわろうとする様子が見られる。また、自信をもって表現したり、よりよい音や表現を目指そうとしたりする姿勢も見られるようになってきた。

(3) 本題材における指導

本題材においては、前半と後半の旋律を歌い重ねることができるパートナーソングとしての歌唱教材「パレードホッホー」と、異なる特徴をもつ旋律の重なり合いや掛け合いを楽しむことができる鑑賞教材「ファランドール」で表現と鑑賞を関連させて取り上げる。旋律の反復や重なりが生み出す曲想を味わい、それを生かして楽曲の構造に気を付けて音楽を聴いたり、演奏の仕方を工夫したりできるようにしていく。

声を合わせる活動においては、パートの音量のバランスや曲想の工夫について、個人やグループの思いや意図をもとに話し合い、音楽全体の豊かな響きや美しさを求めさせていきたい。また、知的に理解する力も伸びるこの時期に、楽譜を見ながら表現し、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みの働きを理解しながら表現できるようにしたい。

学習を展開していくに当たっては、歌いたい、演奏したい、聴きたいという児童の気持ちを大事にし、学習形態を工夫したり、友達と協力して表現する場や時間を十分

に確保したりする。音楽の流れを体全体で受け止めて、旋律や音が重なり合うきれいな響きを味わわせながら音楽のよさにふれ、思いや意図を生き生きと表現できるようにしていきたい。

3 題材の目標

- ・旋律が重なり合う響きを感じ取りながら、旋律の特徴を生かした歌い方や演奏の仕方を工夫したり、互いの歌声を聴いて声を合わせて歌ったりする。
- ・旋律の特徴、旋律の反復や重なりによる曲想とその変化を感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴く。

4 本題材と共通事項とのかかわり

[共通事項] ア	音の重なり	旋律 反復 変化	フレーズ
主な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律を重ねて歌う。 ・旋律の重なり合いを感じ取って聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対照的な旋律を感じ取って歌う。 ・旋律の繰り返しや、それぞれの旋律がいろいろな楽器で演奏されている反復や変化に気付いて聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音量のバランスや歌い方に気を付けながら、拍の流れの流れて歌う。

5 教材について

○「パレードホッホー」（歌唱教材） 高木あき子 作詞／平吉猛州 作曲

$\frac{4}{4}$ 拍子、A (a4 + b4) + B (c4 + c'4) の二部形式。はずむようなリズムの前半 $\boxed{\text{ア}}$ の旋律と、のびやかなリズムの後半 $\boxed{\text{イ}}$ の旋律に対照的な特徴があり、2つの旋律を重ねたときの音楽的な効果を感じ取ることができる。鑑賞教材「ファランドール」の2つの旋律の重なり合いの学習と関連付けることで、重なり合う旋律の面白さ味わわせることができる。

○「アルルの女」第2組曲から ファランドール（鑑賞教材） ビゼー 作曲

フランスの作曲家ジョルジュ ビゼー（1838～1875）の作品で、戯曲「アルルの女」のために作曲された付随音楽の中から4曲を選んで、ビゼーの死後、友人の作曲家エネロスト ギロー（1837～1892）が大編成のオーケストラ用に編曲したものが「アルルの女」第2組曲である。この「ファランドール」は、劇中、村人たちが踊るファランドール舞曲と、民謡として合唱される「3人の王の行進」を合わせて、ギローが編曲したものである。

堂々として迫力のある「王の行進」の旋律と、軽やかな「馬のダンス」の旋律は、特徴の違いがはっきりしているため、それぞれの旋律を聴き取りやすい。

6 題材の評価規準・評価計画（3時間扱い）

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	① 旋律の重なりに興味・関心をもち、友達の歌声を聴きながら自分の声を合わせて歌う学習に、進んで取り組もうとしている。 ② 旋律の特徴や重なり反復や変化が生み出す曲想とその変化を感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴く学習に進んで取り組もうとしている。	① 旋律やその重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取り、互いの旋律が生きるように歌い方を工夫しどのように歌うかについて自分の思いや意図をもっている。	① 異なる旋律の重なり合いを感じ取りながら旋律の特徴を生かして歌っている。	① 旋律の重なりや掛け合いが生み出す響きの面白さや美しさを感じ取りながら、楽曲の構造に気を付けて聴いている。
1	① ②			
2			①	①
3 本時		①		①

7 題材の指導計画

	○学習内容 ・主な学習活動	・教師の働きかけ☆学習活動に即した評価規準
1	<p>「パレードホッホー」</p> <p>○曲の感じをつかみ、旋律の特徴を感じ取る。</p> <p>・範唱を聴いて、模唱する。</p> <p>○前半「ア」と後半「イ」の特徴を生かして歌う。</p>	<p>・前半「ア」の旋律と、のびやかなリズムの後半「イ」の旋律の特徴の違いや、2つの旋律を重ねて歌う楽しさを感じ取り、学習の見通しをもつようにする。</p> <p>・「ア」は、アウフタクトやスタッカートに気を付けてリズムカルに歌うようにする。「パラタタタ」や「パヤパパパ」などの歌詞は、口をよく動かし、はっきりとした発音で歌うようにする。</p> <p>・「イ」は付点2分音符のところでしっかりと響かせ、のびのびとした声の出し方で歌えるようにする。</p> <p>☆旋律の重なりに興味・関心をもち、友達の歌声を聴きながら、自分の声を合わせて歌う学</p>

	<p>「ファランドール」</p> <p>○主な旋律の特徴を感じ取って聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の絵譜を参考に「王の行進」と「馬のダンス」の旋律に気を付けて聴く。 ・それぞれの旋律を口ずさみながら聴く。 <p>2 「ファランドール」</p> <p>○旋律の重なり合いを感じ取って聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気付いたことや感じ取ったことを発表し合い、それをもとに確かめながら聴く。 <p>○旋律の重なりや掛け合いが生み出す響きの面白さや美しさを感じ取って聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ファランドール」の好きなところを紹介文の形で記述する。 <p>「パレードホッパー」</p> <p>○アとイの旋律を重ねて歌い、旋律の重なり合う面白さを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスを半分に分けたり、グループごとに分担したりして、アとイの旋律を重ねて歌う。 <p>3 「ファランドール」</p> <p>本時 ○旋律の重なりや掛け合いが生み出す響きの面白さや美しさを感じ取ったり味わったりする。</p>	<p>習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>【ア① 表情観察・演奏観察・発言内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つの旋律が繰り返し演奏されていることやそれぞれの旋律がいろいろな楽器で演奏されていることに気付くようにする。 ・口ずさむことにより、旋律を覚えるようにする。 <p>☆旋律の特徴や重なり、反復や変化が生み出す曲想とその変化を感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴く学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>【ア② 表情観察・行動観察・発言内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つの旋律の反復、変化や重なり方がどのようにあらわれたかのかが分かるように、整理して板書する。 <p>☆旋律の重なりや掛け合いが生み出す響きの面白さや美しさを感じ取りながら、楽曲の構造に気を付けて聴いている。</p> <p>【エ① 行動観察・発言内容・鑑賞カード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの声をよく聴き合い、大きな声で歌うのではなく、バランスのよい音量で歌声を重ねるようにする。 ・拡大楽譜を提示し、歌詞や楽譜を見ながら、弾んだ感じ、なめらかな感じに合う歌い方を工夫できるようにする。 <p>☆異なる旋律の重なり合いを感じ取りながら旋律の特徴を生かして歌っている。</p> <p>【ウ① 行動観察・演奏聴取】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律の重なりや掛け合いの面白さや美しさについて紹介した文を発表し、話し合えるようにする。
--	---	--

<ul style="list-style-type: none"> ・「ファラドール」のおすすめ紹介を発表し合い、どの部分か確かめて聴いたり、自分の感じ方と比べて聴いたりする。 <p>「パレードホッホー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○二つの旋律が生きるよう【ア】と【イ】の旋律の歌い方を工夫する。 ・パレードの楽しい気分が出るように考えながら、【ア】と【イ】の旋律の歌い方を比べて練習する。 ○練習の成果を発表し、聴き合う。 ・発表するグループと聴くグループに分かれて発表し、話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発表に合わせて、4つの部分を取り出して聴けるようにする。 <p>☆旋律の重なりや掛け合いが生み出す響きの面白さや美しさを感じ取りながら、楽曲の構造に気を付けて聴いている。</p> <p>【エ① 行動観察・発言内容・鑑賞カード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声の大きさやバランスに気を付けて、グループで声を合わせて歌えるように学習形態を工夫し、練習時間や発表の場を確保する。 ・音の重なりの面白さを感じ取って歌えるようにしたいので旋律を重ねる部分を繰り返し練習できるようにする。 <p>☆旋律やその重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取り、互いの旋律が生きるように歌い方を工夫し、どのように歌うかについて自分の思いや意図をもっている。【イ① 行動観察・演奏聴取】</p>
--	---

8 本時の学習指導（3／3）

（1）ねらい

旋律や音の重なり合う面白さを味わって聴いたり、表現したりする。

（2）学習の展開

学習内容 ・ 学習活動	・ 教師の働きかけ ☆学習活動に即した評価規準【評価方法】	時間 (分)
1 学習の雰囲気をつくる。 ・既習曲「オーラリー」のリコーダー奏をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・なめらかな旋律の特徴や音の重なり合いを感じながら演奏できるように声をかけ、楽しい音楽の雰囲気づくりをする。 	2
2 本時の課題を知り、本時の学習の見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">せんりつの重なりを感じ取って きこう 楽しく歌おう</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律や音の重なり合いの面白さを味わいながら学習することを確認する。 	3
3 「ファラドール」を聴き旋律の特徴や二つの旋律の重なりの面白さや美しさを感じ取ったり味わったりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律の重なりや掛け合いが生み出す響きの面白さや美しさについて紹介した児童の文をあらかじめ選んでおき、児童が発表し話し合えるようにする。 ・児童の発表に合わせて、4つの部分を取り出して聴けるように音源を準備する。 	12

- ・おすすめ紹介を発表する。
- 聴 1 : 王の行進の部分
- 聴 2 : 馬のダンスの部分
- 聴 3 : 王の行進
(反復と変化)
- 聴 4 : 重なりの部分

紹介文の例

- ・堂々として勇ましい王様を想像して「王の行進」を聴いてください。
- ・太鼓のリズムが馬がやってくることを表しているようです。馬はリズムにのっておどります。
- ・馬のダンスはだんだんもりあがってきて、王様も喜んでいっしょにおどりたくなってしまいます。

4 二つの旋律の重なり合いを味わいながら「パレードホッホー」歌う。

- ・全員で歌う。
 - アの旋律を歌う
 - イの旋律を歌う
 - アとイを重ねて歌う
- ・グループごとに練習する。

- ・練習の成果を発表し、聴き合う。

- ・音楽を特徴付けている要素にふれて補足を加え、楽曲の構造に気を付けて聴けるようにする。
- ・児童の紹介をもとに、確かめながら鑑賞し、旋律の特徴が感じられるようにする。
- ・ペープサートや鑑賞カードを準備し、旋律の重なりや掛け合いの面白さを楽しみながら聴けるようにする。

☆旋律の重なりや掛け合いが生み出す響きの面白さや美しさを感じ取りながら、楽曲の構造に気を付けて聴いている。

【エ① 行動観察・発言内容・鑑賞カード】

- ・旋律やリズムの特徴を意識して演奏できるように拡大楽譜で示し、曲のもつ面白さを感じ取らせながら繰り返し練習できるようにする。

- ・クラスを半分に分けてアとイを重ねて歌ってみることにより、互いに聴き合い音量などのバランスに気を付けることを確認する。

- ・鑑賞教材「フェアランドール」で学習した、旋律の重なり合いや掛け合いの面白さについて、適宜取り上げ、歌唱表現への意欲付けをする。

- ・児童の歌いたいパートやこの曲を歌うそれぞれのめあてをもとに、グループを設定する。

- ・歌詞や楽譜を見ながら、弾んだ感じ、なめらかな感じに合う歌い方を工夫できるように支援する。とまどっている児童には教師と一緒に歌い、旋律の特徴に合う歌い方を生かして歌えるようにする。

- ・音の重なりの面白さを感じ取って歌えるようにしたいのでアとイの旋律を重ねる部分を繰り返し練習できるようにする。

- ・表現のめあてを確認してから発表する。

- ・発表と聴くグループに分かれて発表し話し合う。

- ・児童の感想から、各グループの工夫を取り上げるようにし、旋律の重なりの面白さに気付いて歌ったり聴いたりしている表現を取り上げて賞賛する。

☆旋律やその重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取り、互いの旋律が生きるように歌い方を工夫し、どのように歌うかについて

15

10

<p>5 全員で演奏し、本時のまとめをする。</p>	<p>自分の思いや意図をもっている。 【イ① 行動観察・演奏聴取】 ・音の重なり合う響きを楽しみながら全員で合唱し、本時のまとめをする。</p>	<p>3</p>
----------------------------	---	----------

(3) 場の設定 第2音楽室

